

来年度以降の取り組みと目標

～ 人文知とデジタル技術の**実装的融合**による教育・研究・社会変革 ～

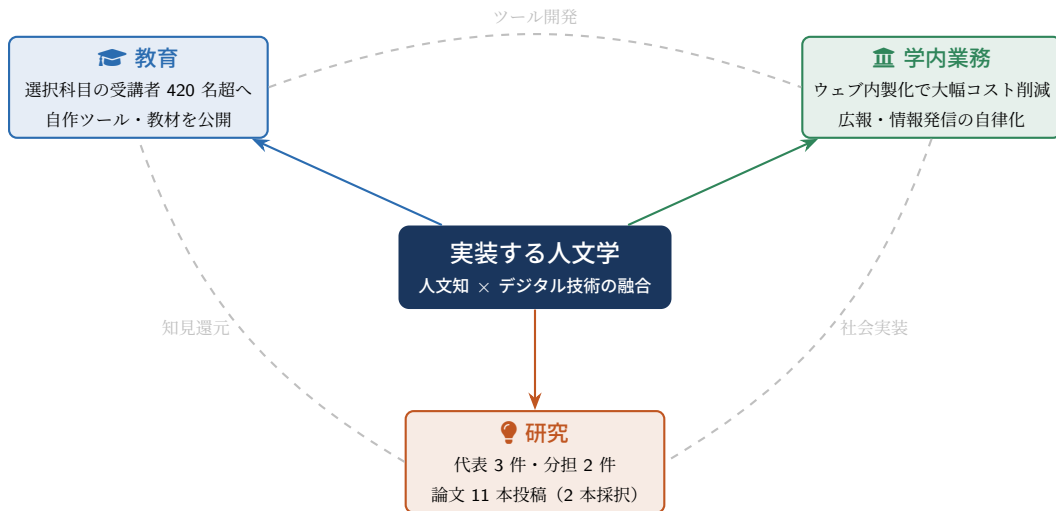
菅原裕輝（人文学林）

2026年3月27日 ミーティング資料

Mission：人文学のアナログな知と先端デジタル技術（AI・データ分析・Web 開発）を「**実装**」のレベルで融合し、革新的な研究方法論と社会への新たな視座を提示する。

Vision：先端技術と人文的価値が対立ではなく**共創**する未来を実現し、誰もが情熱を起点に技術を活かして本質的な問いを深められる世界を創る。

Values：対話と情熱の連鎖を核に、分野を越境し、自らの手でコードを書き、デザインし、形にする。アナログとデジタルを自在に行き来する「**実装する人文学者**」として。



1. 教育：「情熱の連鎖」を生むスケーリング

全学的なデジタルリテラシーへの需要増加に**全力**で応え、受講枠を大幅に拡張します。多人数でもインタラクティブ性を犠牲にしない授業デザインで、一人ひとりの知的好奇心に火をつける場を届けます。

担当授業と受講者規模

授業名	対象	開講	昨年度	来年度目標
人文学とデジタル技術	人文学研究科	春夏・秋冬	90名	200名 (上限 360名)
人文学基礎（人文学と対話）	人文学研究科	春・夏・秋・冬	13名	安定稼働を目標
DH 基礎演習	文学部	秋冬	35名	70名 (上限 80名)
外国語学部のためのデジタルツール	外国語学部	春夏・秋冬	100名	150名 (上限 160名)

⇒ 人文学と対話：<https://yukisugawara.github.io/humanities-and-dialogue/>（パスワード：2026）

研究指導

相談教員（1名）：隔週の密なメンタリングで、構想から執筆まで伴走し、質の高い研究論文の完成を全力でバックアップします。また、毎週金曜 15:00～16:00 のオフィスアワー等を通じて、授業を受けている学生や個別に相談に来た学生へのサポートも充実させていきます。

教育リソースの開発・公開

授業資料と自作ツールを無料で公開。**授業資料**：『人文学におけるデジタルツール活用の手引き』（<https://hdl.handle.net/11094/103995>）／**研究マニュアル**：『デジタルメソッドの説明書：ハイパーリンク・エスノグラフィ篇』（<https://hdl.handle.net/11094/103994>）／**minimalQDA**（質的分析：<https://yukisugawara.github.io/minimal-qda/>）／**TextScope**（テキスト分析：<https://yukisugawara.github.io/TextScope/>）／**Type/Tape**（書き起こし：<https://type-tape.vercel.app>, PW:kuro）／**U-Osaka Transit**（移動支援：<https://uosaka-transit.streamlit.app>）

皿 2. 学内業務：自らの手で作り、自らの手で動かす

現在、ウェブサイト維持管理費（約 24 万円/年）とデジタルアカデミア管理費（約 82 万円/年）で合計約 106 万円/年が外部業者に支払われています。内製化によりこれを大幅に削減することが**最優先事項**です。万一の休職等で更新作業が困難になった場合にこそ、必要に応じて業務委託すればよく、デフォルトで高額な固定費を払い続ける必要はありません。

🌐 人文学林ウェブサイトの刷新

約 15 年前の技術で構築された現行サイトを、現代的な技術・デザインで一から作り直します。外部委託費（240,000 円/年）をサーバー代のみ（約 8,000 円/年）へと約 96%削減し、自立的・持続可能な運用基盤を確立します。

→ プロトタイプ：<https://yukisugawara.github.io/jinbungakurin-test/>（パスワード：gakurin）

🏠 デジタルアカデミアの再構築

利用者がほほいらないにもかかわらず管理費が毎年約 82 万円—ROI が極めて低い現状を是正。デザインを刷新し、Linfer 社依存を脱却、機動的な更新体制へ移行します。

→ プロトタイプ：<https://yukisugawara.github.io/digital-academia/>（パスワード：gakurin）

→ 参考：全学版構想 U-Osaka Ecological Map：<https://yukisugawara.github.io/uosaka-ecological-map/>

📣 人文学林広報プロジェクト

人文学林ウェブページ・Instagram (https://www.instagram.com/jinbungakurin_uosaka/) を通じた多角的な情報発信を推進します。来年度より、**学生インタビュー・教員インタビュー・イベント報告**を展開するほか、ウェブサイトを機動的に運用し、イベント等の情報発信も積極的に行っていきます。

🏫 大阪大学ふくふくセンター

ウェブサイトの再構築・運営および Instagram の運営を担当します。

🗣️ 委員・イベント企画

学術推進部門委員／オブザーバー：研究科評価広報委員会・人文学基礎チーム・DH チーム／イベント企画：新任教員研究交流会（4/23 木 16:00～17:00）、グローバル人文学研究交流会（3 月予定）

💡 3. 研究：生成 AI 時代の「百学連環」を切り拓く

生成 AI 時代における諸学問の有機的な連結—「百学連環」が研究ビジョンです。理論を語るだけでなく、自らツールを開発し、データを分析し、プラットフォームを構築する「実装する人文学」を実践します。

🚩 研究代表

資金源	研究テーマ	期間
トヨタ財団 2026 年度特定課題	生成 AI と人類学によるデジタル公共圏の再構築	2026/5～2029/4
栢森情報科学振興財団 2024 年度	深層学習を用いた社会技術的現象の分析	2025/1～2026/10
大阪大学 GJS 拠点形成 PJ	デジタル人類学で拓く「デジタル日本学」教育	2025/8～2028/3

🤝 研究分担（産学官連携）

連携先	研究テーマ	期間
富士通 富士通共同研究	生成 AI による多文化多言語の子どもへの教育支援	2025/5～2027/3
科研費 基盤研究 (B)	多様な子どもの複数言語アセスメントの実証研究	2025/4～2030/3

📖 2025 年度の研究成果

すべて第一著者として査読誌に投稿。論文 1 本出版、1 本採択。さらに **9 本を投稿**し、現在査読結果を待っています（国内誌 2 本・国際誌 7 本）。国際誌は IF 2～3 程度のジャーナルを中心に投稿しています。